活動状況報告（９月）

文化芸術コース　６期生　小林　大賀

9 月 7 日（木）に現地入りし、翌週に受け入れ先期間を訪問しました。私の担当教授で日本美術専門の Amaury García（アマウリ・ガルシア）先生はアジア・アフリカ・研究センターの前所長だった方ですが、とても気さくで親切な方です。「若い教授たちと親しくなるといいだろう」と、同センターの Emily（エミリー）教授（文化人類学）、Shadhi（シャディ）教授（中東文学）、Matías（マティアス）教授（日本文学）に紹介をしていただきました。また、メキシコ在住のアーティスト矢作隆一氏と作家 Ismael Rodríguez（イスマエル・ロドリゲス）氏による展覧会のオープニグへも招待していただきました。（写真 1～３）。

大学内の図書館は広大で、社会科学分野の蔵書は中南米地域で最大とのことです。すらすら読むというわけにはいきませんが、研究に関連する本を手にとってみています。また、学内で開かれた講演会に参加しました。登壇した三浦里美教授には、受け入れの調整段階から大変お世話になっています。テーマは「韓国の SF」です。（写真４～５）

私は授業を受ける立場にはないため、学生の知り合いがいなかったのですが、新学期の親睦会が田中道子教授のお宅で催され、マティアス教授が招待してくださったので交流することができました。皆さんとても積極的で、研究対象に関わる様々な情報を提供してくれます。スペイン語でもコミュニケーションをとることができ、事前の学習が功を奏しました。どうしても通じない時は英語に切り替えてコミュニケーションをしています。（写真６～７）

メキシコ・シティでは 9 月の最終週にギャラリーが連携する美術週間があり、5 件ほど見学に回りました。

9 月の宿泊場所のオーナーである Lorena 氏、Pablo 氏もアーティスト／オーガナイザーであり、彼らが美術週間に合わせて建物内にギャラリーをオープンしたため、アーティストの公開トークイベントに参加し、関係者と知り合うことができました。（写真８）

日本からオンラインで連絡をとっていたメキシコ在住のアーティストはぎのみほ氏、アーティスト／僧侶として活動する横尾咲子氏ともお会いでき、プロジェクトの内容を伝え、アドバイスと情報提供をしていただくことができました。事業計画では 9 月は現地の人に多く会い、情報を収集して活動計画をブラッシュアップする予定だったので、この点は順調かと思います。（写真９）

友人から紹介を受けたメキシコの詩人 Guadalupe Garván（グアダルーペ・ガルバン）と交流し、その詩の日本語訳を行いました。

15 時間の強度な時差ボケ、標高 2200m による高山病、食あたりなど、想定していた体調不良を一通り通過しました。初めの 3 週間は体調が安定しませんでしたが、現在は落ち着いています。

（写真 1～３）右からエミリー教授、アマウリ教授

（写真４～５）

（写真６～７）

（写真８～９）